

Privia

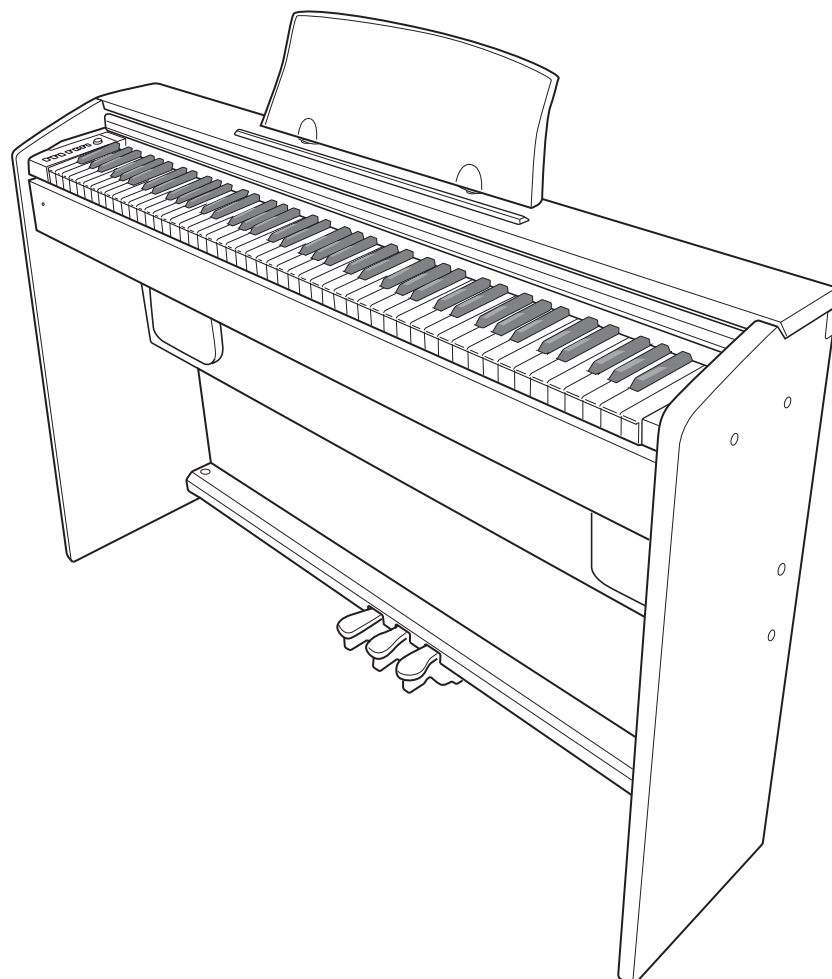
PX-720 PX-720C

取扱説明書（保証書別添）

この取扱説明書は、お読みになったあとも、保証書とともに、大切に保管してください。

「安全上のご注意」

ご使用前に、添付別紙「安全上のご注意」をお読みの上、正しくお使いください。



スタンド/
譜面立て付

- 組み立て方法は、20ページをご覧ください。
- ネジ類は発泡スチロール緩衝材内にあります。詳しくは本体の包装に貼付けの「再梱包イラスト図」を参照してください。



このマークはEU諸国における
リサイクル規制のマークです。

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

目次

スタンドの組み立て方..... 20

付属品を確認しましょう.....	20
スタンドを組み立てる.....	20

コード類を接続する.....	24
譜面立ての立て方.....	24

各部の名称..... 2

TONE/SETTING ボタンについて.....	3
設定の保存と、操作のロックについて.....	3

電源について..... 4

AC アダプターの使い方.....	4
-------------------	---

接続について..... 5

ヘッドホンを接続するには.....	5
オーディオ機器やアンプと接続するには.....	5
付属品・別売品について.....	5

いろいろな音色を聴いて みましょう..... 6

音色を選んで弾いてみる.....	6
音色の明るさを調節するには (ブリリアンス).....	7
2つの音色を重ねてみる (レイヤー).....	8
音色に効果をかけてみる (エフェクト).....	8
ペダルを使ってみる.....	9
メトロノームを鳴らしてみる.....	9
2台ピアノにして弾いてみる (デュエット).....	10

曲を聴いてみる (デモ演奏/ ミュージックライブラリー)..... 11

デモ演奏を聴いてみる.....	11
ミュージックライブラリーの曲を 1曲ずつ聴いてみる.....	11
ミュージックライブラリーの曲を 練習してみる.....	12

演奏を録音/再生してみる (録音機能)..... 13

トラックについて.....	13
演奏を録音してみる.....	14
録音した演奏を再生してみる.....	15
録音した内容を消去するには.....	15

その他の設定..... 16

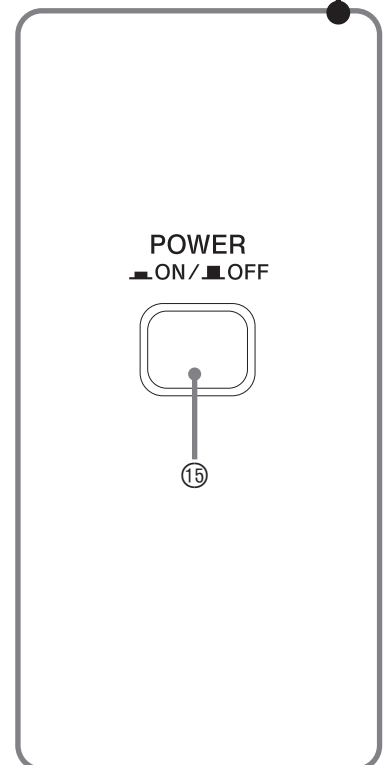
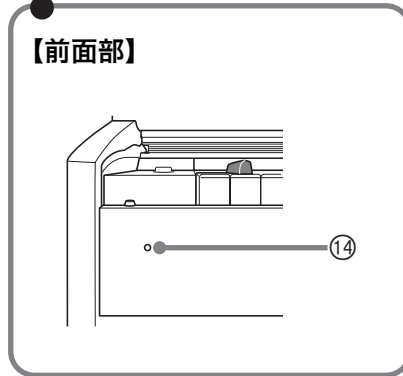
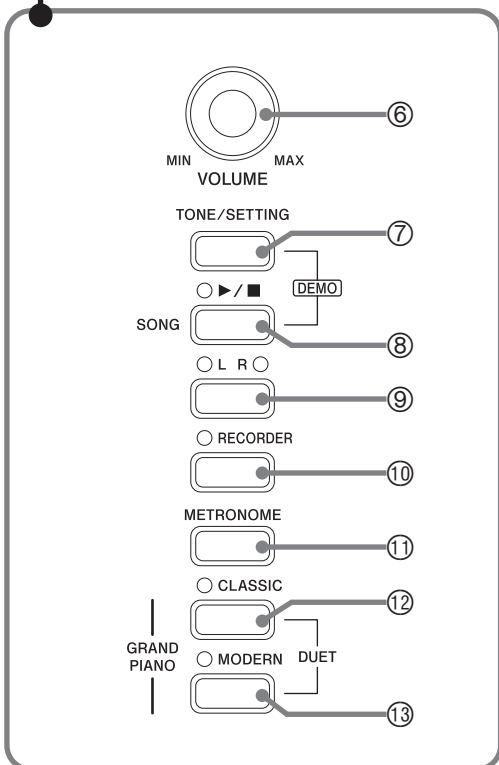
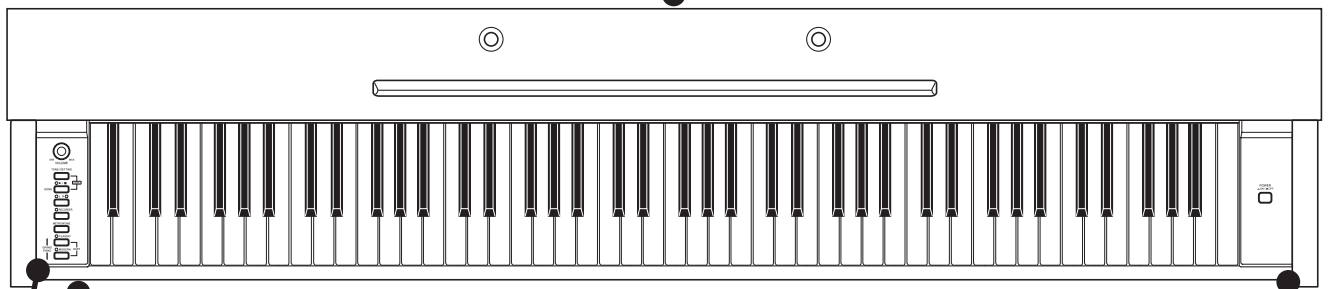
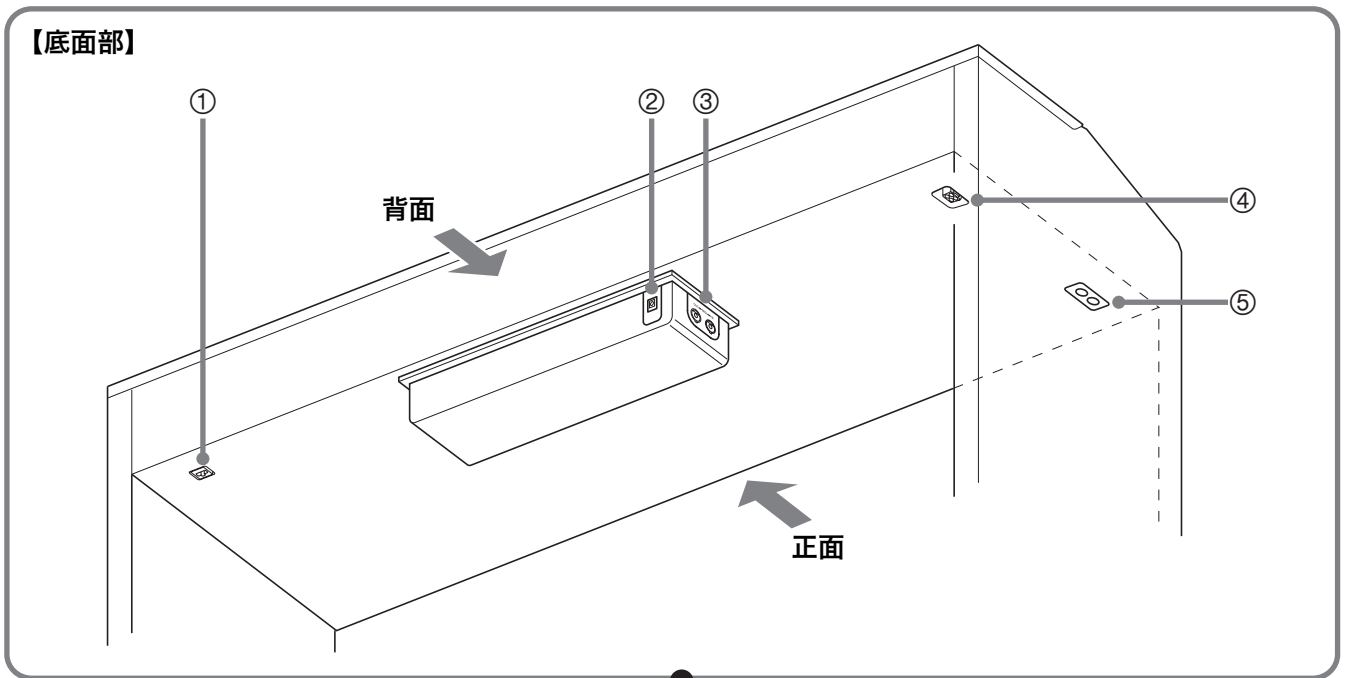
設定するには.....	16
設定に使用する鍵盤一覧.....	17
設定項目一覧表.....	18
音色選択.....	18
ブリリアンス (BRILLIANCE).....	18
リバース (REVERB).....	18
コーラス.....	18
曲選択 (SONG SELECT).....	18
テンポ (TEMPO).....	18
メトロノームの拍子 (METRONOME BEAT).....	18
曲の音量.....	18
メトロノームの音量.....	18
鍵盤のタッチ (TOUCH RESPONSE).....	18
鍵盤の調 (トランスポーズ).....	18
音程の調整 (チューニング).....	18
送信チャンネル.....	19
ローカルコントロール.....	19
操作音.....	19
設定の保存.....	19
操作のロック.....	19
MIDI 機能を使ってみる.....	19

資料..... 25

困ったときは.....	25
製品仕様.....	26
トーンリスト.....	27
ソングリスト.....	27
ご使用上の注意.....	28
保証・アフターサービスについて.....	28

MIDI インプリメンテーション・ チャート

各部の名称



⚠ 注意

- 本機を演奏する際、必ず本機のスライド式鍵カバーを完全に開けるようにしてください。不完全な開け方で演奏した場合、演奏の際の振動でカバーが閉まり、本機とカバーとの間に指をはさむことがあり、危険です。

📌 メモ

- マーク右の数字は、参照ページです。
- 各部の名称は、本書の説明文中で太字で記載されます。

- | | |
|---|---|
| ① ペダルコネクター ④24 | ⑨ ^{左手/右手} LR ボタン ④12, 14, 15 |
| ② 電源端子 (DC 12V) ④4 | ⑩ ^{レコーダー} RECORDER ボタン ④13, 14, 15 |
| ③ ^{ミディ アウト/イン} MIDI OUT/IN 端子 ④19 | ⑪ ^{メトロノーム} METRONOME ボタン ④9 |
| ④ スピーカーコネクター ④21 | ⑫ ^{グランドピアノ クラシック} GRAND PIANO (CLASSIC) ボタン
④6, 8, 10 |
| ⑤ ^{ホン} PHONES 端子 ④5 | ⑬ ^{グランドピアノ モダン} GRAND PIANO (MODERN) ボタン
④6, 8, 10 |
| ⑥ ^{ボリューム} VOLUME つまみ ④5, 6 | ⑭ 電源ランプ |
| ⑦ ^{トーン/セッティング} TONE/SETTING ボタン
④3, 7, 8, 9, 10, 11, 16 | ⑮ ^{パワー} POWER ボタン ④6 |
| ⑧ ^{ソング} SONG ▶/■ ボタン ④9, 10, 11, 12, 14, 15 | |

TONE/SETTING ボタンについて

本機では、TONE/SETTING ボタンを使って様々な設定を行います。操作の流れとポイントを、ここでつかんでおきましょう。

- TONE/SETTING ボタンは、これを押しながら、設定項目が割り当てられている鍵盤を押す、という使い方をします。鍵盤を押して設定を行うと、お知らせのための操作音が鳴ります。

例：7ページの「鍵盤を使って音色を選ぶには」



- 詳しい操作方法や設定できる内容については、16ページ「その他の設定」を参照してください。

設定の保存と、操作のロックについて

本機では、各種設定の内容を電源を切った後も保存したり、ボタンをロックして誤操作を防ぐこともできます。詳しくは18ページの「設定項目一覧表」を参照してください。

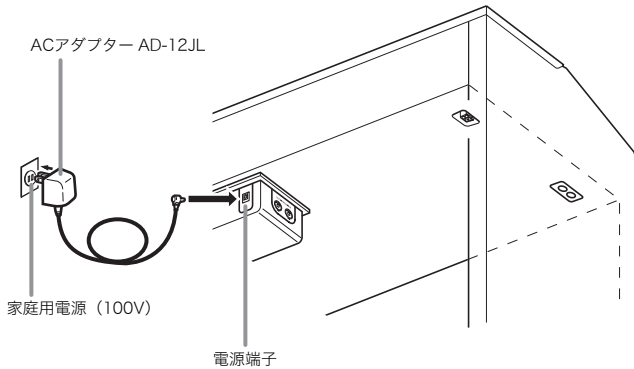
電源について

本機は、電源として家庭用電源を使用します。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

ACアダプターの使い方

本機指定のACアダプターを接続してください。
本機指定ACアダプターの型式：AD-12JL

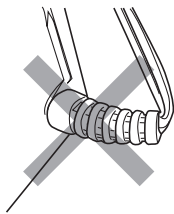
【底面部】



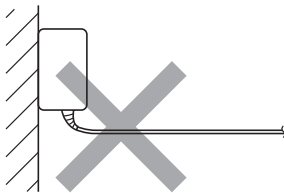
コード部の断線防止のため、次の点にご注意ください。

<使用時>

- コードを強く引っ張らない
- コードを繰り返し引っ張らない
- コードの根元部分を折り曲げない



- コードをピンと張った状態で使用しない

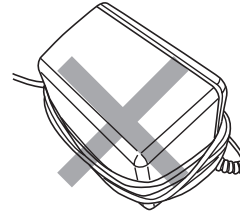


<移動時>

- 本体を移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから外す

<保管時>

- コードは図のようにACアダプター本体に巻き付けず、束ねてまとめる



重要!

- ACアダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱を持ちますが、故障ではありません。

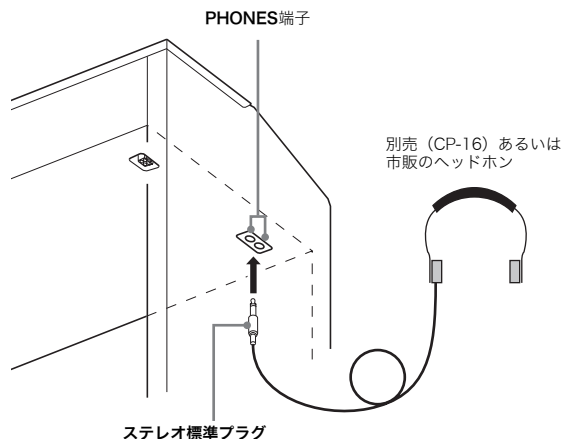
接続について

重要!

- 接続の際は、本機のVOLUMEつまみを（接続する機器側にも音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。

ヘッドホンに接続するには

【底面部】



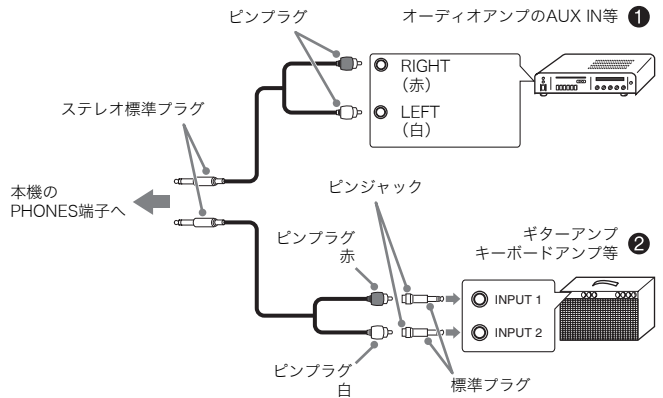
別売（CP-16）あるいは市販のヘッドホンに**PHONES**端子に接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

メモ

- ヘッドホンのプラグは**PHONES**端子に根元までしっかり差し込んで下さい。プラグが根元まで挿入されていないと、ヘッドホンの片側からしか音が出ない場合があります。

オーディオ機器やアンプと接続するには

オーディオ機器や楽器用アンプと接続すれば、それらの機器のスピーカーの能力に応じた、より迫力のある音量や音質で、演奏を楽しめます。



オーディオ機器と接続するには（図①）

市販の接続コード（標準プラグ×1、ピンプラグ×2）で図①のように接続します。その際、片側（本機につなぐ側）が**ステレオ標準プラグ**のものをご利用ください。（モノラルプラグでは、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）通常はオーディオ機器のインプットセレクターを、接続した端子（AUX IN等）に切り替えます。音量は本機の**VOLUME**つまみでも調節できます。

楽器用アンプと接続するには（図②）

相手側の機器に応じて、市販の接続コード※で図②のように接続してください。

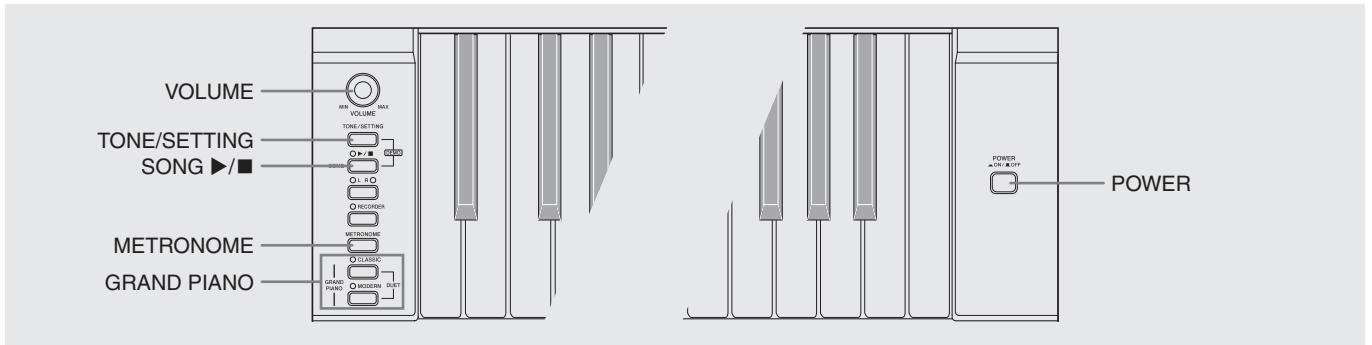
音量は本機の**VOLUME**つまみでも調節できます。

- ※ 本機につなぐ側：ステレオ標準プラグのもの
アンプにつなぐ側：左右両チャンネルの信号が入るようにする。
（どちらが欠けても、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）

付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

いろいろな音色を聴いてみましょう



音色を選んで弾いてみる

本機には、11種類の音色があります。

※ 音色名は、本機鍵盤部の左端の上側に記されています。
7ページの「鍵盤を使って音色を選ぶには」を参照してください。

1. POWERボタンを押して、電源を入れます。

重要!

- 本機は電源オン時にシステムの準備を行います。POWERボタンを押すと、LRボタンのランプが交互に点灯し、約6秒後に使用可能となります。

2. 音色を選びます。

- グランドピアノ音色のモダンもしくはクラシックを選ぶには、**GRAND PIANO**ボタン (**MODERN**、**CLASSIC**) のいずれかを押します。
 - 押したボタンの上にかかれた音色が選ばれて、ランプが点灯します。
- その他の音色を選ぶには
 - 7ページの「鍵盤を使って音色を選ぶには」を参照してください。

3. 音量を調節します。

- **VOLUME**つまみを使って調節します。

4. 鍵盤を弾いてみましょう。

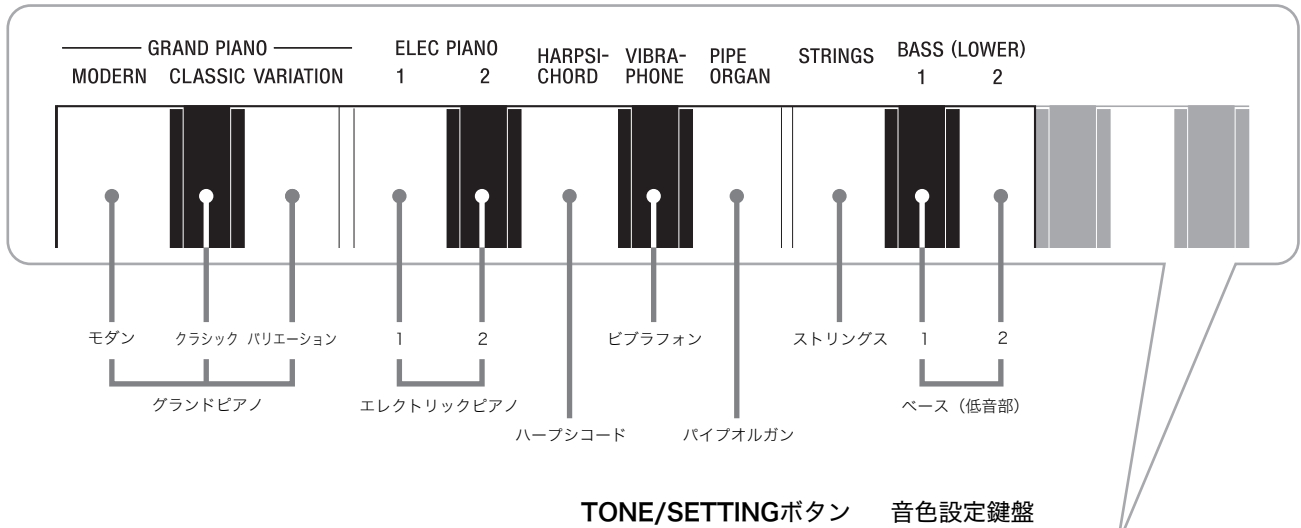
メモ

おすすめのグランドピアノ音色（モダン、クラシック）について

- 11種類の音色のうち、最初の2音色はステレオサンプリングによるグランドピアノ音色で、この2音色のみボタンを使って選べます。
それぞれ異なる長所を持ったおすすめの音色ですので、演奏する曲やお好みに合わせてお選びください。

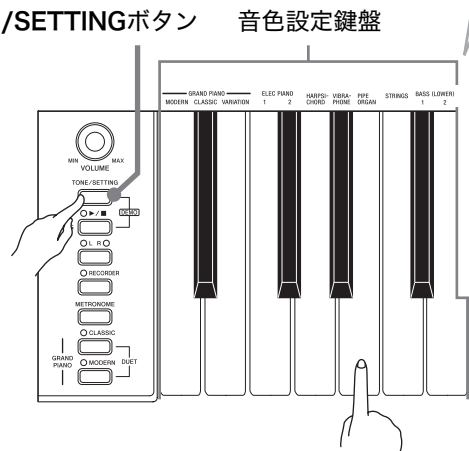
音色名	特徴
モダン	明るく硬めのグランドピアノ音色です。鍵盤タッチによる音量や音質の変化がつきやすく、残響効果（リバーブ）も深めにかかります。ダイナミックで華やかな演奏効果をあげるのに適しています。
クラシック	アコースティックピアノに近い、自然な響きと演奏性を持つピアノ音色です。リバーブなどの派手な効果は控えめですが、代わりにアコースティックピアノのペダル使用時の共鳴効果（アコースティックレゾナンス）が分かりやすく、繊細な表現が可能です。練習にも適しています。

鍵盤を使って音色を選ぶには



1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、選びたい音色に対応している鍵盤を押します。

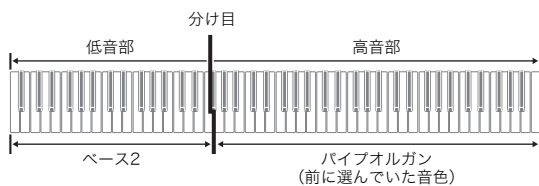
例：パイプオルガンを選ぶとき



低音部専用の音色（ベース1/2）について

上記の操作1で、右端の2つのベース音色（BASS 1/2）を選んだ場合には、低音部（左側）の鍵盤だけが選んだ音色になり、高音部（右側）の鍵盤には前の音色がそのまま残ります。

- このように鍵盤が別れて、それぞれ別々の音色で弾ける機能を「スプリット」と呼びます。

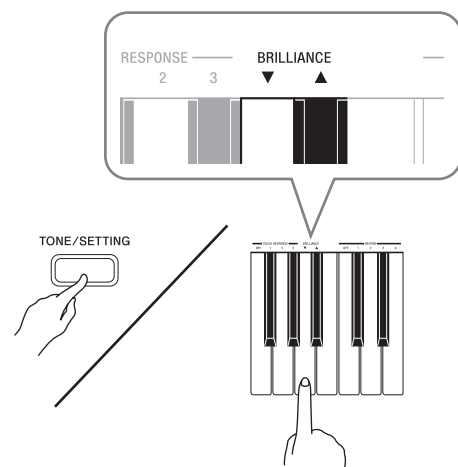


メモ

- ベース1/2以外の音色を選ぶと、通常の1音色の状態に戻ります。
- 録音機能のトラック2の録音では、ベース音色は選べません。

音色の明るさを調節するには (ブリリアンス)

1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、BRILLIANCE鍵盤を押して音の明るさ（-3〜3）を設定します。



- ▼鍵盤：まるやかな柔らかい感じの音になる
- ▲鍵盤：明るく硬い感じの音になる

メモ

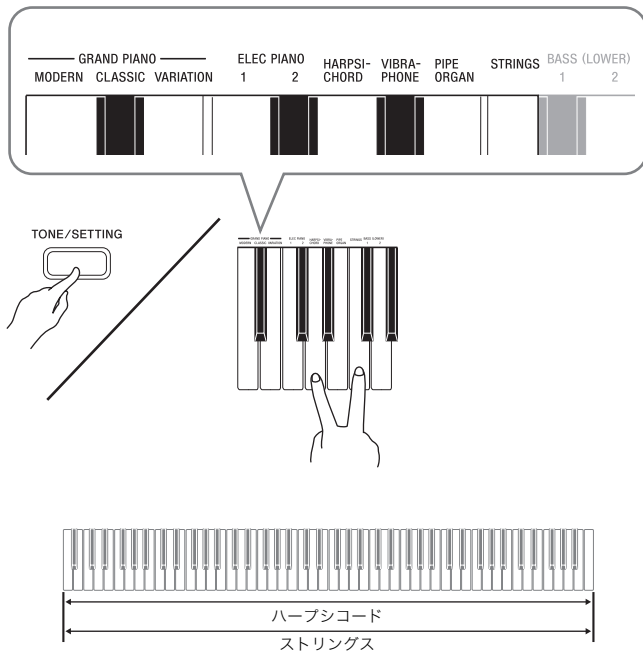
- ▼▲鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

2つの音色を重ねてみる (レイヤー)

本機では、2種類の音色を重ねて演奏できます。

1. TONE/SETTINGボタンを押しながら、重ねたい音色に対応している鍵盤を2つ一緒に押します。

例：HARPSICHORD鍵盤とSTRINGS鍵盤を一緒に押す。



2. もとの1音色の状態に戻すには、GRAND PIANOボタンを押す、など音色を選び直します。

メモ

- GRAND PIANOボタン (MODERN、CLASSIC) は、2つの音色を重ねる操作には使用できません。
- BASS (LOWER) 1と2は、他の音色と重ねることはできません。
- 録音機能のトラック2の録音では、レイヤーの設定はできません。

音色に効果をかけてみる (エフェクト)

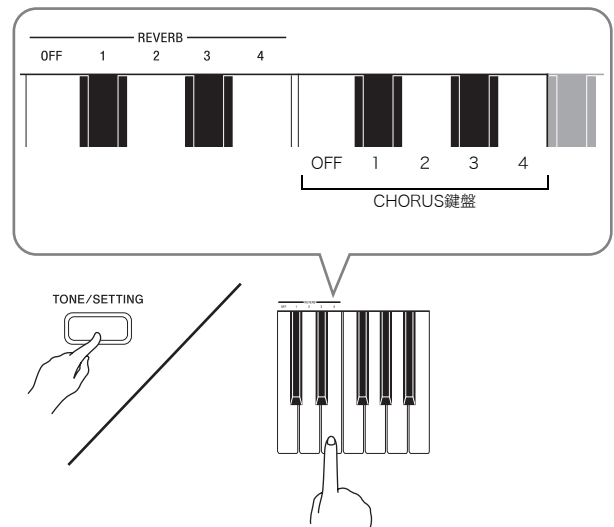
リバーブ... 残響の効果

コーラス... 音が広がるような効果

効果を設定するには

リバーブ、コーラスには各4タイプあります。

1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、REVERBまたはCHORUS鍵盤を押して設定値を選びます。

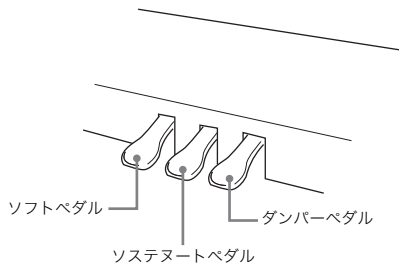


例：リバーブの4を選ぶ

- リバーブの設定値
OFF: オフ
1 : ルーム
2 : 小ホール
3 : 大ホール
4 : スタジアム
- コーラスの設定値
OFF: オフ
1 : コーラス効果薄め
2 : コーラス効果中位
3 : コーラス効果深め
4 : フランジャー (音にうねりを与える)

ペダルを使ってみる

ダンパー、ソフト、ソステヌートの3つのペダルがあります。



【各ペダルの働き】

● ダンパーペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音の余韻が非常に長くなります。

- GRAND PIANO音色 (MODERN/CLASSIC/VARIATION) を選んでいる場合は、実際のグランドピアノでダンパーペダルを使用している時のような共鳴効果 (アコースティックレゾナンス) も生み出せます。また、途中まで踏んで軽く効果をかける「ハーフペダル」にも対応しています。

● ソフトペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、ペダルを踏んでから鍵盤で弾いた音が弱まるだけでなく、音色が柔らかく聞こえる効果が得られます。

● ソステヌートペダル

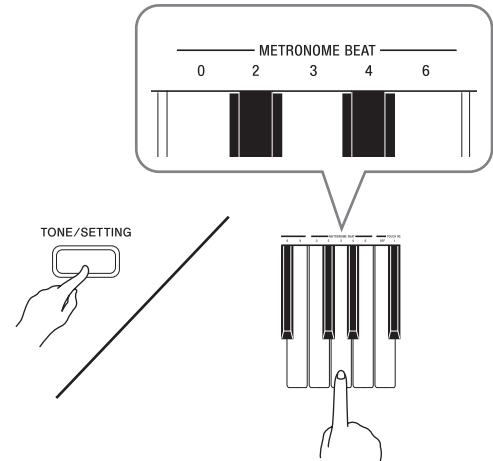
このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、ペダルを離すまで余韻が長くなる効果が得られます。

メトロノームを鳴らしてみる

1. METRONOMEボタンを押します。

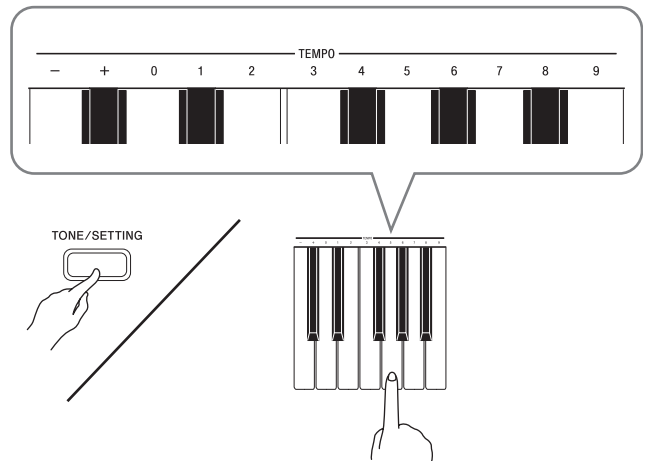
- メトロノームが鳴ります。
- SONG ▶/■ ボタン上のランプが拍に合わせて点滅します。

2. TONE/SETTINGボタンを押したまま、METRONOME BEAT鍵盤を押して拍子を設定します。



- 拍子は、0、2、3、4、6拍子から選べます。「0」を設定すると、ベル音は鳴らずにクリック音のみが鳴ります。拍子にかかわらず練習するのに便利です。

3. TONE/SETTINGボタンを押したまま、TEMPO鍵盤を押してテンポ (20~255) を設定します。



- +/- 鍵盤を押すと、テンポが1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤 (0~9) を押して、テンポの値を直接入力することもできます。入力は必ず3桁で行ってください。

例：値“96”なら、“0→9→6”と入力します。

4. メトロノームを止めるには、METRONOMEボタン、またはSONG ▶/■ボタンを押します。

メモ

- 手順3で+/-鍵盤を一緒に押すと、そのとき選ばれているミュージックライブラリーの曲のテンポ（録音機能を使っている場合は120）になります。

メトロノームの音量の設定

メトロノームが鳴っている／鳴っていないに関わらず設定できます。

1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、「メトロノームの音量」鍵盤を押して音量（0～42）を設定します。

- 使用する鍵盤は、17ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
- ▼▲鍵盤を押すと、メトロノームの音量が1ずつ上下します。

メモ

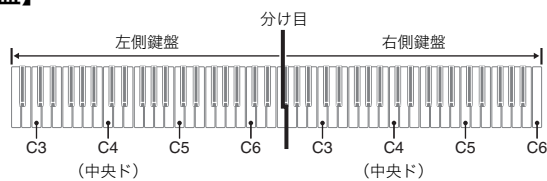
- ▼▲鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

2台ピアノにして弾いてみる（デュエット）

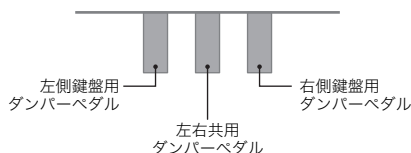
鍵盤を中央から左右に分けて、2台ピアノにして連弾ができます。左右の鍵盤はほぼ同じ音域になり、両端のペダルもそれぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。

左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディーを弾く、といった活用もできます。

【鍵盤】



【ペダル】



メモ

- 3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。

1. 2つのGRAND PIANOボタン（MODERN、CLASSIC）のいずれかを押して、2台ピアノで弾きたい音色を選びます。

メモ

- デュエット機能では、上記の2種類以外の音色は設定できません。

2. GRAND PIANOボタンを2つ一緒に押します。

- 2台ピアノの状態（デュエットオン）になります。このときGRAND PIANOボタンのランプが、短時間点滅して、設定が完了したことをお知らせします。

3. 2つのGRAND PIANOボタンのいずれか1つを押すと、デュエットオンが解除されて、通常の状態に戻ります。

重要!

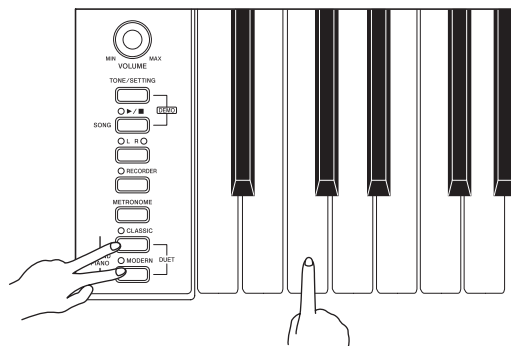
- 手順3で、TONE/SETTINGボタンと鍵盤を使っていずれかの音色を選んだ場合にも、デュエットオンは解除されます。
- デュエットオンでの録音（13ページ）はできません。

音域を変更するには

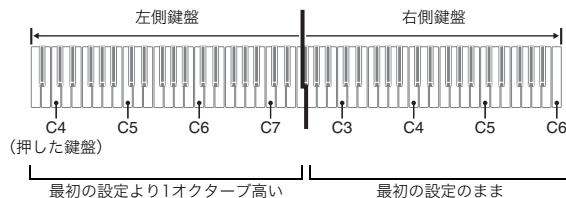
最初の設定から、左右の鍵盤それぞれの音域をオクターブ単位で変更できます。

例えばピアノ曲の左手パートと右手パートを2人で分担して演奏しようとする、最初の設定では音域が足りなくながちです。そのような場合に曲に合わせて音域を変更できます。

1. GRAND PIANOボタンを2つ一緒に押したまま、左側鍵盤でC4（中央ド）の高さに設定したいC（ド）の鍵盤を押します。



例：左端のC（ド）の鍵盤を押した場合は、以下の音域になります。

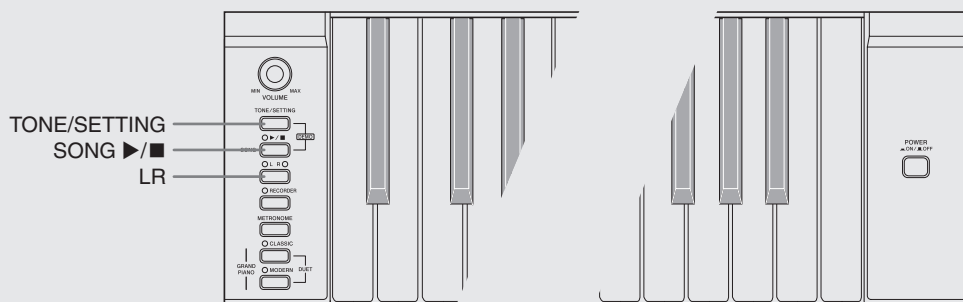


2. GRAND PIANOボタンを2つ一緒に押したまま、右側鍵盤でC4（中央ド）の高さに設定したいC（ド）の鍵盤を押します。

メモ

- デュエットオンを解除してもう一度オンにすると、最初の音域設定に戻ります。

曲を聴いてみる(デモ演奏/ミュージックライブラリー)



重要!

- 本機では、曲を変更すると数秒間、曲データの読み込みを行います。読み込み中は鍵盤演奏やボタン操作ができません。また、鍵盤演奏中にこの操作を行うと発音が停止します。

デモ演奏を聴いてみる

本機には60曲（ミュージックライブラリー）が内蔵されています。この全60曲を連続して聴くことができます。

1. TONE/SETTINGボタンを押しながら、SONG ▶/■ボタンを押します。

- 01番から60番までの60曲を、番号順に繰り返しデモ演奏します。
- デモ演奏にあわせて、メロディー音色で鍵盤演奏ができます。
- デモ演奏中に曲を変更できます。操作方法は次項「ミュージックライブラリーの曲を1曲ずつ聴いてみる」の操作2を参照してください。

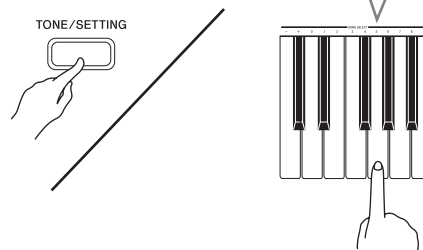
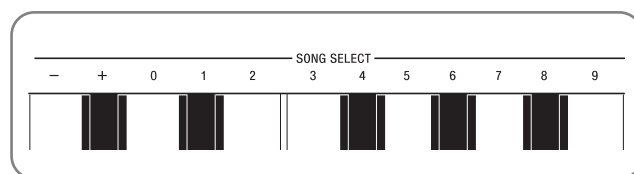
2. デモ演奏を止めるには、SONG ▶/■ボタンを押します。

メモ

- デモ演奏中は、上記の曲変更と演奏停止以外の操作はできません。

ミュージックライブラリーの曲を1曲ずつ聴いてみる

1. 27ページのソングリストで、選みたい曲の番号を調べます。
2. TONE/SETTINGボタンを押したまま、SONG SELECT鍵盤を押して、曲を選びます。



- +/-鍵盤を押すと、曲の番号が1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤（0~9）を押して、曲の番号を直接入力することもできます。

例：08番の曲なら、“0→8”と入力します。

3. SONG ▶/■ボタンを押します。

- 選んだ曲の演奏が始まります。

4. 演奏を止めるには、もう一度SONG ▶/■ボタンを押します。

- 曲が最後まで演奏されると自動的に演奏が止まります。

メモ

- +/-鍵盤を一緒に押すと、01番の曲が選ばれます。
- 演奏のテンポや曲の音量を設定できます。設定方法は、16ページの「その他の設定」を参照してください。

ミュージックライブラリーの曲を練習してみる

曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

メモ

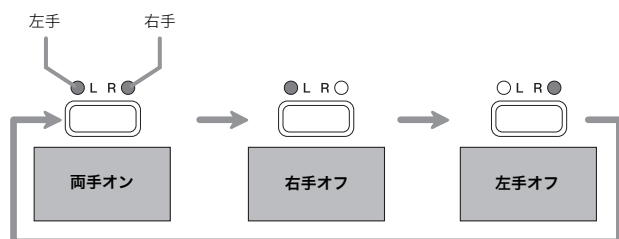
- ミュージックライブラリーには、連弾曲が入っています。連弾曲を選んだ場合は、第1ピアノ<Primo>または第2ピアノ<Secondo>の音を消して、自分で弾く練習ができます。

準備

- 曲を選び、テンポを設定しておきます。(16ページの「その他の設定」参照)。
- 曲を演奏しているときは、曲調に変化をつけるためにテンポが変化します。

1. LRボタンを押して、音を消したいパートを選びます。

- ボタンを押すごとにボタン上の2つのランプがそれぞれ点灯/消灯します。消したいパートのランプを消灯させます。



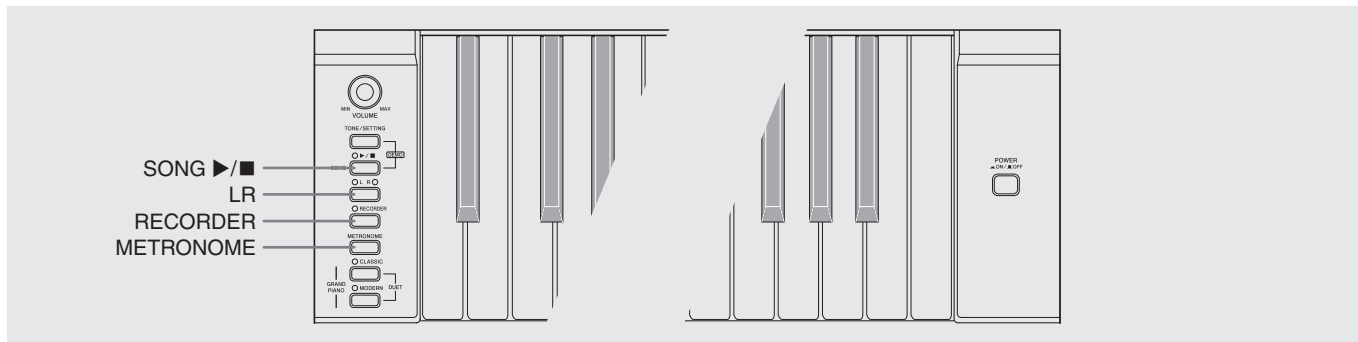
2. SONG ▶/■ボタンを押します。

- 演奏が始まります。操作1で選んだパートは鳴りません。

3. 音を消したパートを自分で弾きます。

4. 曲を止めるには、もう一度SONG ▶/■ボタンを押します。

演奏を録音／再生してみる(録音機能)



本機で演奏した内容を録音して、再生できます。

トラックについて

曲は2つのトラック（録音内容が記録される場所）で構成されています。トラック1、トラック2と順番に録音していけば、録音後に2つのトラックを1つの曲として、一度に再生することができます。



録音できる容量

- 約5,000音符まで録音できます。
- 録音できる容量が残り少なくなると、ランプの点滅が速くなります。
- 演奏の途中で録音できる容量をこえると、自動的に録音が止まります。

録音される内容

- 鍵盤演奏
- 演奏に使った音色
- ペダル操作
- リバープ／コーラス設定（トラック1のみ）
- テンポ設定（トラック1のみ）
- レイヤー設定（トラック1のみ）

録音内容の保持

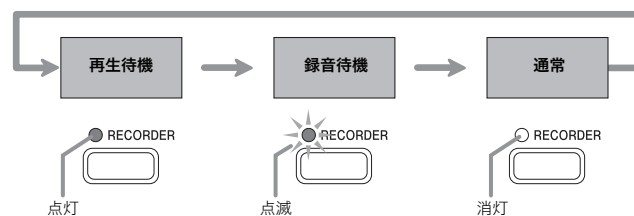
- 新しく録音した時点で、前の録音内容は消去されます。
- 録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。

重要!

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんが、あらかじめご了承ください。

RECORDERボタンの使い方

RECORDERボタンを、1回押すごとに以下のように状態が切り替わります。

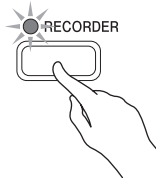


演奏を録音してみる

トラック1か2を選んで録音し、さらに録音したトラックの再生に合わせてもう一方のトラックに録音できます。

トラックを選んで録音するには

1. RECORDERボタンを2回押して、ボタンのランプを点滅させます。



- Lランプが点滅し、トラック1へ録音待ちの状態になります。



2. LRボタンを押して、録音するトラックを選びます。

- 録音したいトラックのランプを点滅させます。
トラック1：Lランプ
トラック2：Rランプ

例：トラック1を選ぶ



3. 録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

- 音色（6ページ）
- エフェクト（8ページ）

メモ

- メトロノームを鳴らしたい場合は、拍子とテンポを設定して、METRONOMEボタンを押します。設定方法は9ページの「メトロノームを鳴らしてみる」を参照してください。

4. 演奏を開始します。

- 自動的に録音がはじまります。

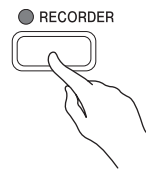
5. 録音を止めるには、SONG ▶/■ボタンを押します。

- RECORDERボタンとLRボタンのランプが、点滅から点灯に変わります。
- 録音した内容をすぐに再生したい場合は、もう一度SONG ▶/■ボタンを押します。

6. 録音や再生が終わったら、RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを消灯させておきます。

録音済みのトラックの再生を聴きながら、もう一方のトラックに録音するには

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



2. LRボタンを押して、録音済みのトラックのランプを点灯させます。

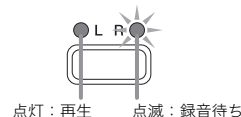
3. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点滅させます。

- Lランプが点滅します。

4. LRボタンを押して、録音するトラックを選びます。

- 録音するトラックのランプを点滅させます。

例：録音済みのトラック1を聴きながら、トラック2へ録音する



点灯：再生 点滅：録音待ち

5. 必要に応じて、録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

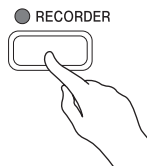
6. SONG ▶/■ボタンか鍵盤を押して、演奏を開始します。

- トラック1の再生と、トラック2への録音が同時にはじまります。

7. 録音を止めるには、SONG ▶/■ボタンを押します。

録音した演奏を再生してみる

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



メモ

- 両方のトラックに録音済みの場合、一方のトラックの音を消して再生できます。LRボタンを押すごとにボタン上の2つのランプがそれぞれ点灯／消灯します。音を消したいトラックのランプを消灯させます。

2. SONG ▶/■ボタンを押します。

- 録音した内容が再生されます。

メモ

- 再生時は、テンポを変えることができます。
- 途中で止める時には、もう一度SONG ▶/■ボタンを押します。

録音した内容を消去するには

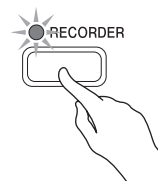
録音した内容をトラック単位で消去します。

重要!

- 以下の操作を完了すると同時に、録音した内容が消去され、元に戻すことはできません。消去しようとしている内容を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行うことをお勧めします。

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。

2. RECORDERボタンをもう一度押して、ボタンのランプを点滅させます。



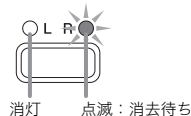
3. LRボタンを押して、消去したいトラックを選びます。

- 選んだトラックのランプが点滅します。

4. トラックのランプが以下の状態になるまで、RECORDERボタンを押し続けます。

- 消去したいトラックのランプが点滅したまま、もう一方のトラックのランプが消灯します。

例：トラック2を消去する。



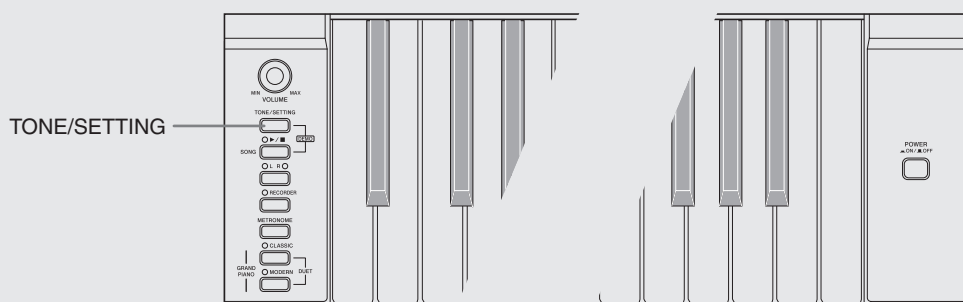
5. LRボタンを押します。

- 選んだトラックの録音内容が消去され、再生待機の状態になります。
- 操作を中止したい場合は、RECORDERボタンを押します。

メモ

- 上記の操作4から、操作5で消去を実行するまでの間は、LRボタンとRECORDERボタン以外の操作はできません。

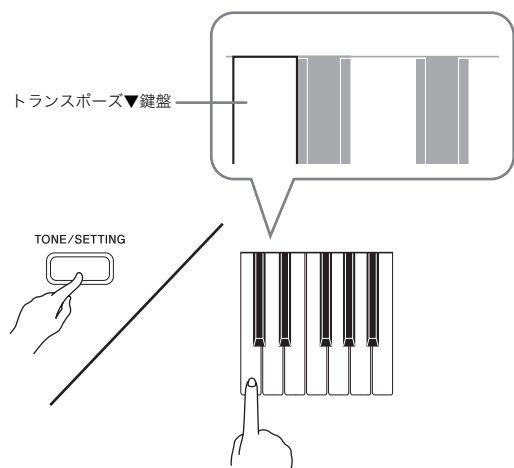
その他の設定



TONE/SETTINGボタンと鍵盤を使って、音色や曲を選ぶだけでなく、音の効果や鍵盤のタッチなどのさまざまな設定ができます。

設定するには

1. 設定したい項目を18ページの「設定項目一覧表」から選び、内容を確認します。
2. その項目の設定に使用する鍵盤の位置を、17ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認します。
3. TONE/SETTINGボタンを押しながら、手順2で確認した鍵盤を押して設定を行います。
 - 設定が完了すると、お知らせのための操作音が鳴ります。例：トランスポーズの設定で、半音下げるには、トランスポーズ▼鍵盤を一回押します



4. TONE/SETTINGボタンから指を離して、設定を終了します。

メモ

- 手順3で操作音が鳴らないようにすることもできます。18～19ページの「設定項目一覧表」の中の「⑩ 操作音」を参照してください。

鍵盤を押して設定する操作のタイプについて

設定する項目によって、鍵盤操作のタイプが異なります。操作タイプには以下の3種類があります。

タイプA：設定値を直接選ぶ。

例：STRINGS鍵盤を押して、音色の「ストリングス」を選びます。

タイプB：+/-や▼▲鍵盤で、設定値を1ずつ上下させる。

- 鍵盤を押し続けると、設定値が連続して変化します。
- 2つの鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

タイプC：数値入力鍵盤（0～9）で2桁以上の設定値を入力する。

例：テンポ120なら、「1→2→0」と入力します。

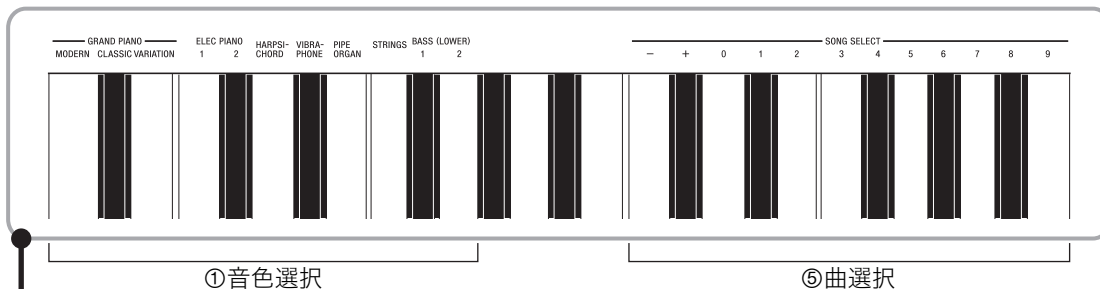
メモ

- 18ページの「設定項目一覧表」の中の「操作タイプ」から、設定したい項目の操作タイプを確認してください。

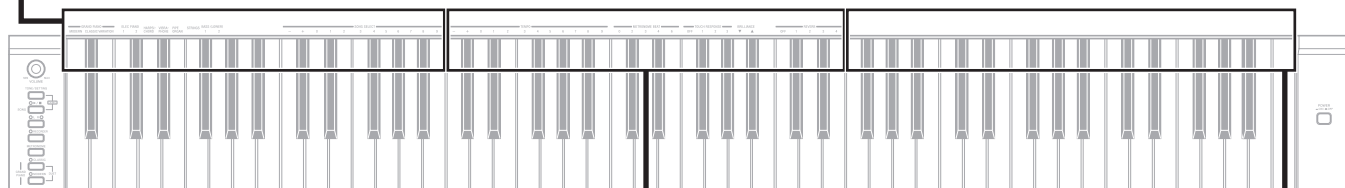
設定に使用する鍵盤一覧

• ①～⑰は18ページの「設定項目一覧表」での項目番号です。

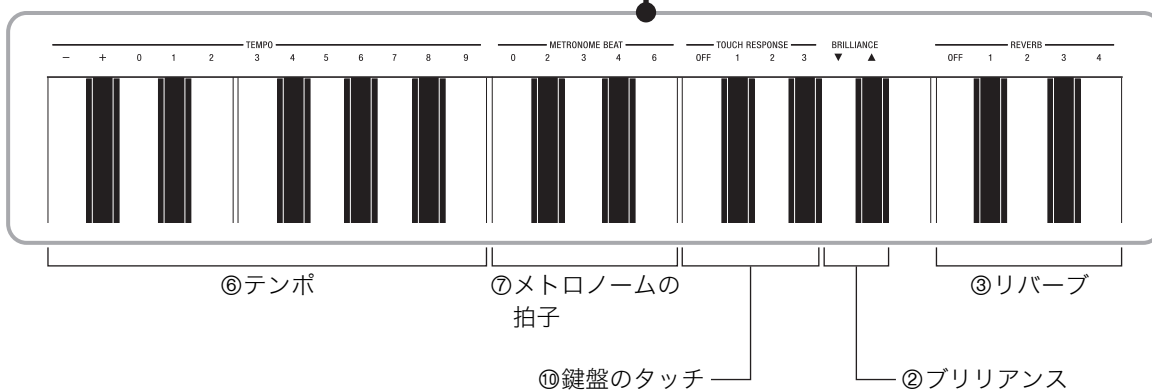
【左側鍵盤】



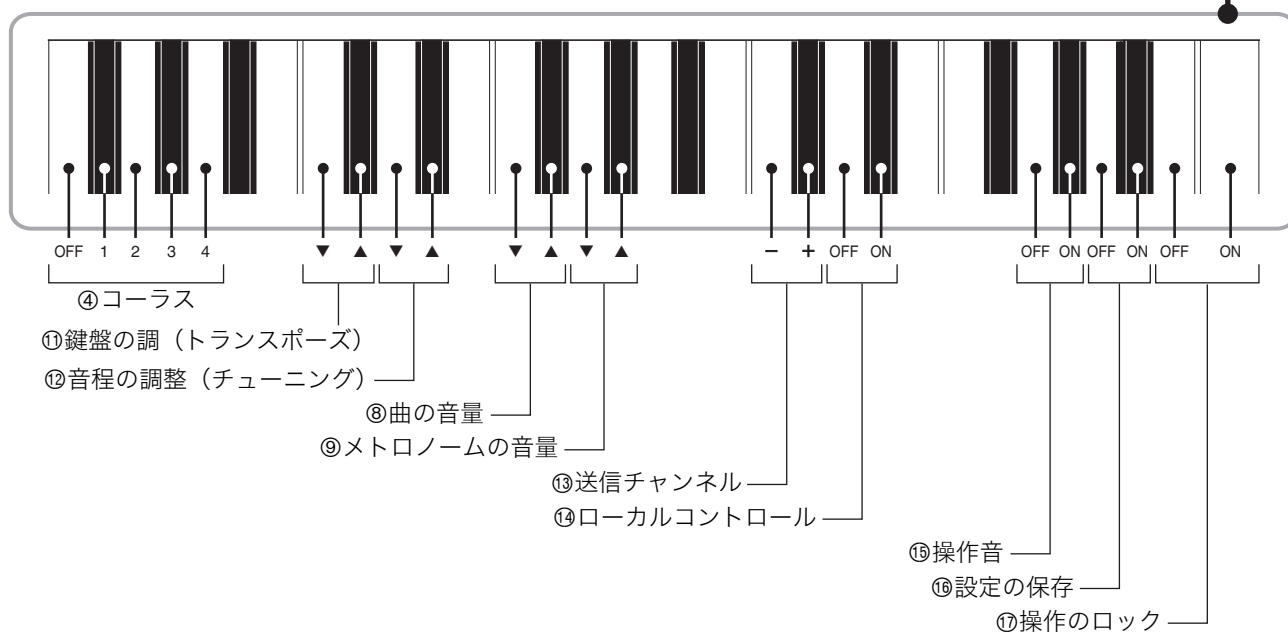
【全体図】



【中央鍵盤】



【右側鍵盤】



設定項目一覧表

■ 音色についての設定

項目	設定値	操作タイプ (16ページ参照)	内容	備考
① 音色選択	6ページ参照 初期値：GRAND PIANO (MODERN)	A	鍵盤の音色を選びます。 (6ページ参照)	
② ブリリアンス (BRILLIANCE)	-3~0~3 初期値：0	B	音の明るさを設定します。 (7ページ参照)	
③ リバーブ (REVERB)	オフ (OFF)、1~4 初期値：2	A	音の残響効果を設定しま す。 (8ページ参照)	
④ コーラス	オフ (OFF)、1~4 初期値：オフ	A	音に広がりを与える効果を 設定します。 (8ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> デュエット機能のオン中には、設定できません。 2つの音色を重ねているときにコーラスを設定すると、音色を重ねるときに後から鍵盤を押して指定した方の音色のみに効果がかかります。 ベース音色を使用しているときにコーラスを設定すると、ベース音色のみに効果がかかり、高音部の音色には効果がかかりません。

■ 曲/メトロノームについての設定

項目	設定値	操作タイプ (16ページ参照)	内容	備考
⑤ 曲選択 (SONG SELECT)	01~60 初期値：01	B (+/-) C (0~9)	ミュージックライブラリー 曲を選びます。 (11ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 数値入力鍵盤 (0~9) を使って設定する場合は、必ず2桁で入力してください。 例：08番を入力するには、“0→8”と最初に“0”を入力する。 録音機能の使用中は、設定できません。
⑥ テンポ (TEMPO)	20~255 初期値：120	B (+/-) C (0~9)	ミュージックライブラリー 曲やメトロノーム、録音機 能での録音/再生などのテ ンポを設定します。 (9ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 数値入力鍵盤 (0~9) を使って設定する場合は、必ず3桁で入力してください。 例：テンポ90を入力するには、“0→9→0” と最初に“0”を入力する。 録音機能の使用中には、+/-鍵盤を一緒に 押すと“120”になります。
⑦ メトロノームの拍子 (METRONOME BEAT)	0、2、3、4、6 初期値：4	A	メトロノームの拍子を設定 します。 (9ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中は、設 定できません。
⑧ 曲の音量	00~42 初期値：42	B	ミュージックライブラリー 曲の音量を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 録音機能の使用中は設定できません。
⑨ メトロノームの 音量	00~42 初期値：36	B	メトロノームの音量を設定 します。	

■ 鍵盤の設定

項目	設定値	操作タイプ (16ページ参照)	内容	備考
⑩ 鍵盤のタッチ (TOUCH RESPONSE)	オフ (OFF)、1~3 初期値：2	A	鍵盤を弾くときの強弱感度 を設定します。 設定値が小さいほど、弱め のタッチで大きな音が出ま す。	
⑪ 鍵盤の調 (トランスポーズ)	-12~0~12 初期値：0	B	鍵盤全体の調を、半音単位 で上下させることができま す。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中と、 デュエット機能のオン中は設定できません。 調を高く設定している場合、音色によっては 最高鍵域で音の高さが不明瞭になる場合があ ります。
⑫ 音程の調整 (チューニング)	-99~0~99 初期値：0	B	本機全体のピッチを、 A4=440Hzから1セント単 位 (100セント=半音) で上 下させることができます。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中は設定 できません。

■ MIDI関連/その他の設定

項目	設定値	操作タイプ (16ページ参照)	内容	備考
⑬ 送信チャンネル	01~16 初期値：01	B	本機のMIDIメッセージを外部の機器へ送信するチャンネルを、1~16チャンネルの中から選びます。	
⑭ ローカルコントロール	オフ、オン 初期値：オン	A	オフに設定すると、鍵盤と音源が切り離され、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。MIDIで接続した外部機器のみを鳴らしたい場合などに使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中は設定できません。
⑮ 操作音	オフ、オン 初期値：オン	A	オフに設定すると、 TONE/SETTING ボタンを押しながら鍵盤で設定を行ったときに、操作音が鳴らなくなります。	<ul style="list-style-type: none"> 本設定は、本機の電源を切った後も保存されます。 ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。
⑯ 設定の保存	オフ、オン 初期値：オフ	A	オンに設定すると、その時点の各種設定内容※1が保存され、本機の電源を入れ直したときにその設定になります。オフに設定すると、電源を入れ直すと本機全体の設定※2がリセットされます。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、デュエットオン中、および録音機能の使用中は設定できません。 <p>※1 以下の設定は保存されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> デュエット機能のオン/オフ 曲のLR (パート) 選択 ローカルコントロール <p>※2 操作音のオン/オフ設定は除く</p>
⑰ 操作のロック	オフ、オン 初期値：オフ	A	オンに設定すると、ボタンがロックされて操作できなくなります (電源ボタンとロック解除の操作を除く)。誤ってボタンに触って設定が変わったりするのを防止できます。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。

MIDI機能を使ってみる

MIDIについて

電子楽器同士、あるいは電子楽器とパソコン機器との間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことです。

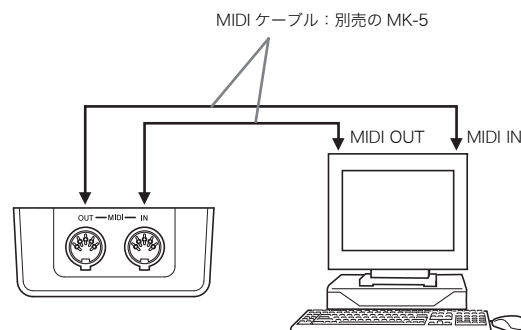
メモ

- MIDIインプリメンテーションの詳細は <http://www.casio.co.jp/emi/> を参照してください。

MIDIの接続について

パソコンなどの外部機器に本機の演奏内容を録音/再生する場合は、お互いのMIDI端子同士を下図のように接続して、双方向でMIDIメッセージのやり取りができるようにします。

【底面部】



MIDI関連の設定について

MIDI関連設定の項目や操作については、このページの一覧表をご参照ください。

スタンドの組み立て方

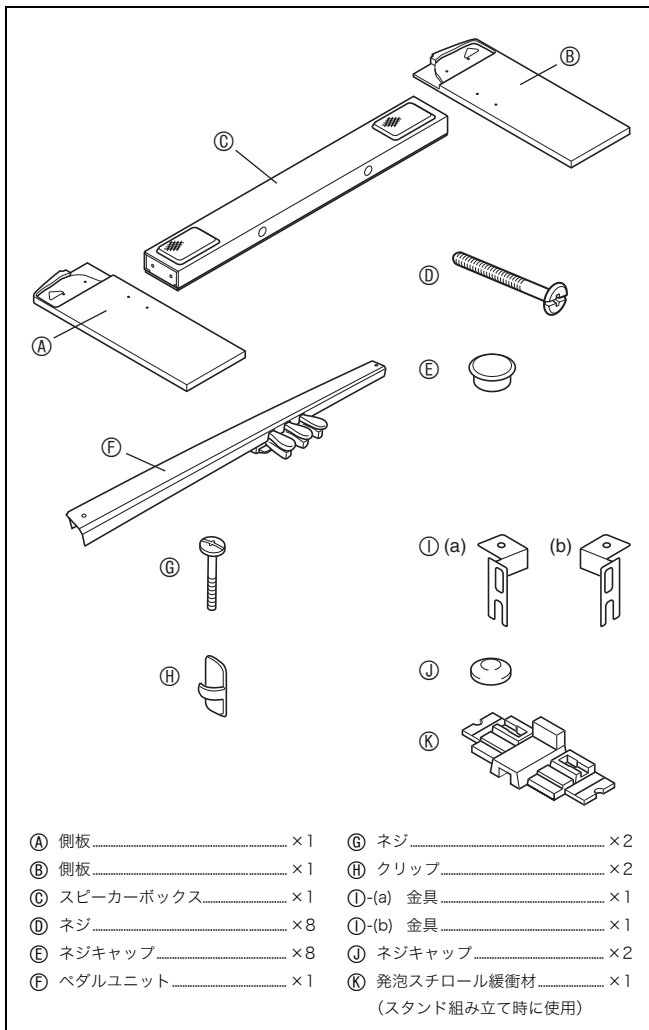
付属品を確認しましょう

準備

- 最初に以下の部品がそろっていることをご確認ください。
- 組み立て用の工具は付属しておりません。あらかじめ大きめのプラス (+) ドライバーをご用意ください。

重要!

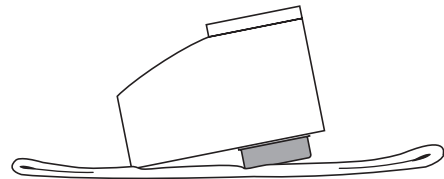
- ネジ類はビニール袋にまとめて、発泡スチロール緩衝剤内にあります。詳しくは本体の包装に貼付けの「再梱包イラスト図」をご覧ください。



スタンドを組み立てる

△注意

- 組み立ては、必ず二人で行ってください。
- 組み立ては、必ず平らな場所で行ってください。
- 組み立てが終わるまで、本体の鍵カバーについているテープをはがさないようにしてください。組み立ての途中でカバーが開閉すると指などはさむことがあり、危険です。
- 組み立ての際は、手などはさまないようにご注意ください。
- ピアノ本体を床に置くときは、本体底面が床に直接接触しないように、柔らかいもの（毛布、座布団など）の上に置いてください。

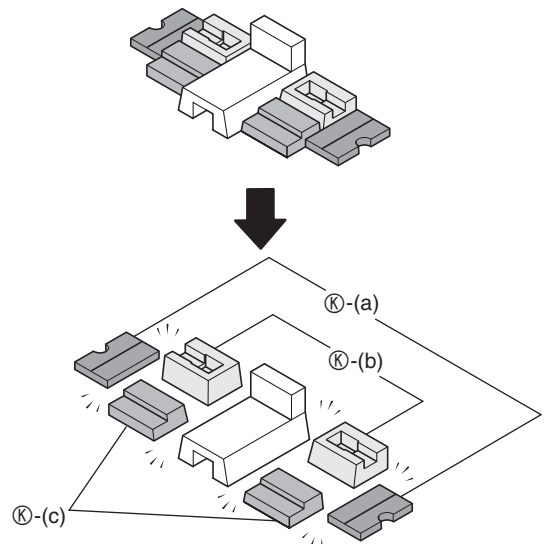


メモ

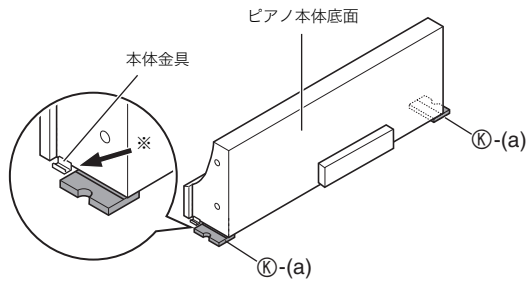
- 側板Ⓐ、Ⓑにピアノ本体およびスピーカーボックスⒸを取り付けるときは、全体を横にした状態で行ってください。
- スタンド組み立て時は、必ず以降の順番を守ってください。

準備

- スタンドの組み立てを始める前に、発泡スチロール緩衝材Ⓖを下図のように分割しておきます。分割した緩衝材のうち、Ⓖ(a)、Ⓖ(b)、Ⓖ(c)の3種類（合計6個）を組み立ての補助材として使用します。
- 緩衝材がない場合は、雑誌など平らで厚みのあるものを使用してください。



1. ピアノ本体を緩衝材®-(a)の上に乗せます。



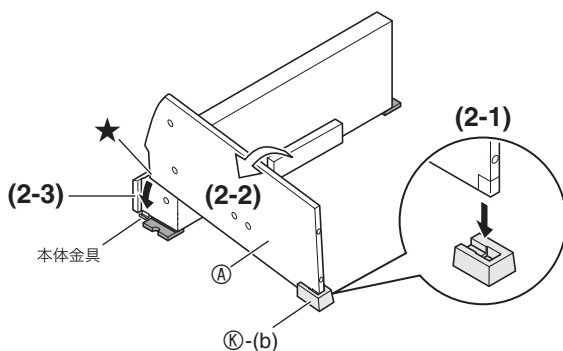
※緩衝材®-(a)の端と、本体金具の手前端が、ほぼ一致するように位置を合わせてください。

2. 以下の手順で、側板®の角★を本体金具に差し込みます。

重要!

• 本体金具に側板を差し込むときに、角★を傷つけないよう慎重に作業を行ってください。手順 (2-2) で側板を傾けすぎると、傷つきやすくなりますのでご注意ください。

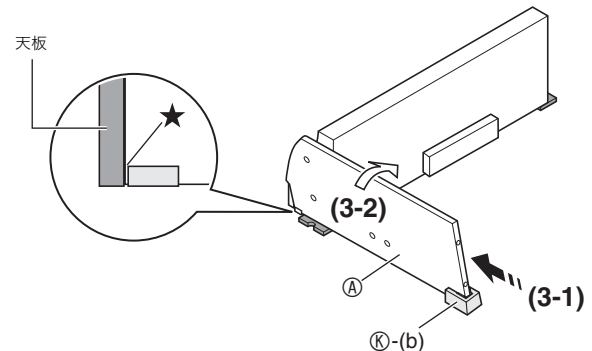
- (2-1) 側板®のコーナー金具がついている角を、緩衝材®-(b)に差し込みます。
- (2-2) 側板®を、図の矢印の方向に少しだけ傾けます。
- (2-3) 傾けた角度を保ったまま、側板®の角★を、本体金具に差し込みます。



3. 側板とピアノ本体の位置関係を調節します。

(3-1) 側板®を、図の黒い矢印の方向に押して、側板®とピアノ本体との隙間★ができるだけ空かないよう位置を調節します。

(3-2) 側板®の傾きを戻して、ピアノ本体の左側面に密着させます。



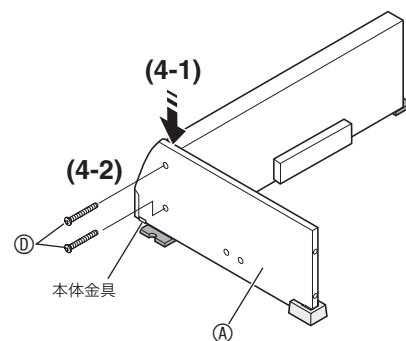
重要!

• 手順 (3-1) では、しっかりと奥まで押してください。側板が途中の位置で止まっていると、手順 (3-2) で傾きを戻すことができなくなります。

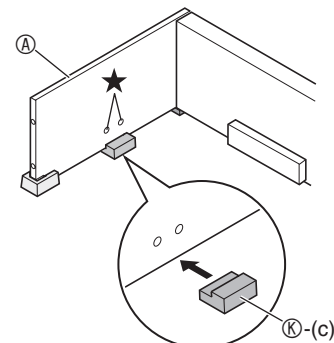
4. 側板をピアノ本体にネジ留めします。

(4-1) 側板®を下向きに押して、本体金具の底までしっかり押し込みます。

(4-2) ネジ®で、側板®をピアノ本体にネジ留めします。



5. 緩衝材®-(c)を、側板®の下に挿入します。

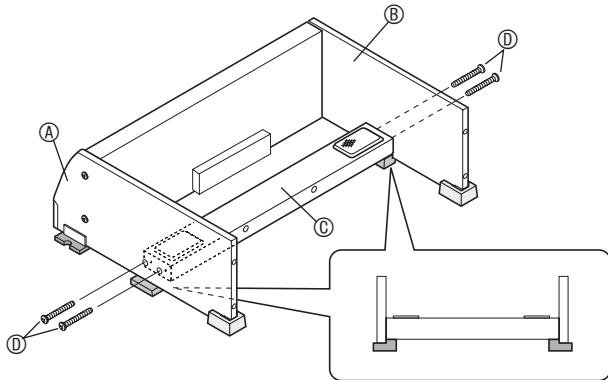


重要!

• 緩衝材の位置が、側板のネジ穴★の真下になるように挿入してください。

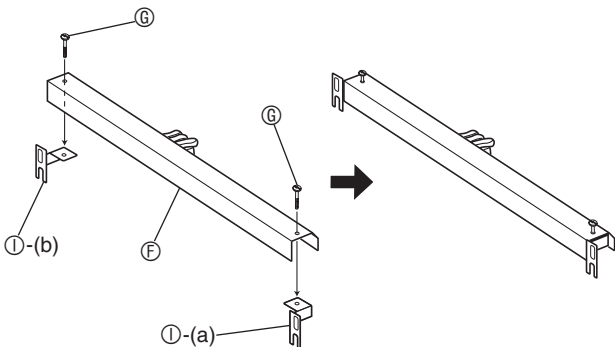
6. 以上の手順2～5と同様の方法で、もう一方の側板®をピアノ本体に取り付けます。

- 7.** スピーカーボックス⑩を図のように横向きにして側板④、⑤に取り付けます。取り付けには、ネジ⑪を4本使用します。
- スピーカーボックス⑩のネジの穴を側板の穴に合わせてネジ⑪を取り付けます。
 - スピーカーボックス⑩の片側を仮留めして、もう一方をしっかりと留めます。
 - 次に、仮留めしてあるスピーカーボックス⑩の片側をしっかりと留めます。



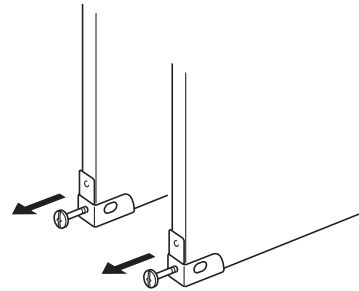
※スピーカーボックス⑩は、後ろ向きに取り付けることもできます。

- 8.** すべてのネジをしっかりと固定したら、緩衝材を取り除き、スタンドをおこします。
- スタンドをおこした後に、これまでに取り付け付けた側板のネジ8箇所、にネジキャップ⑫を装着します。
- 9.** ペダルユニット⑬に金具⑭を取り付けて、ネジ⑮で仮留めします。

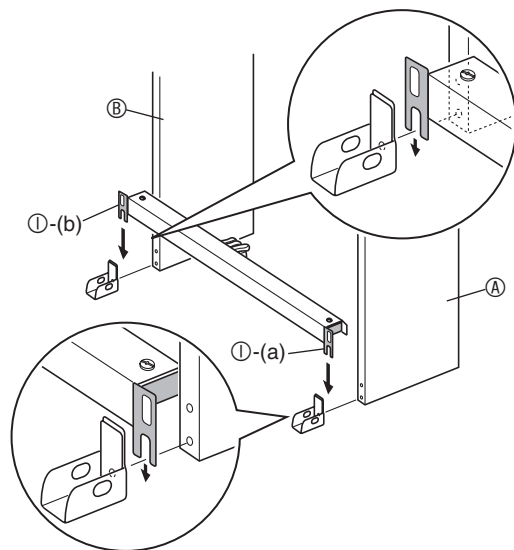


本機を壁に近づけて設置する場合は、23ページの手順10へ進んでください。

- 10.** スタンドの側板④、⑤の底面についているコーナー金具のネジを一度外します。



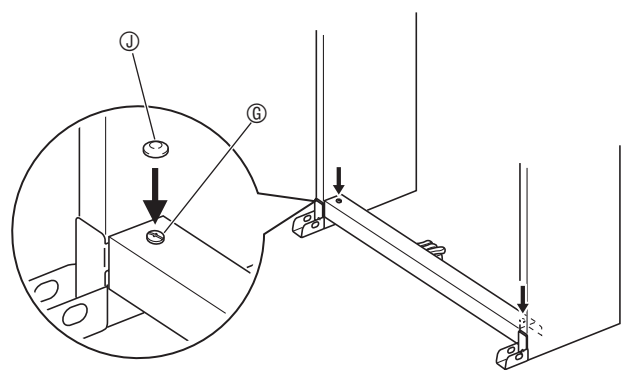
- 11.** 図のように、手順10で外したコーナー金具を逆向きにしてから、ペダルユニットの金具⑭(a)と⑭(b)部を、コーナー金具と側板④と⑤で挟みます。



警告

- コーナー金具は、本機を倒れにくくする用途を兼ね備えています。本機を壁から離して設置する場合には、図のように向きを変えて取り付けてください。元の向きのままでは、本機が後方に傾いたとき、転倒しやすく怪我の原因となります。

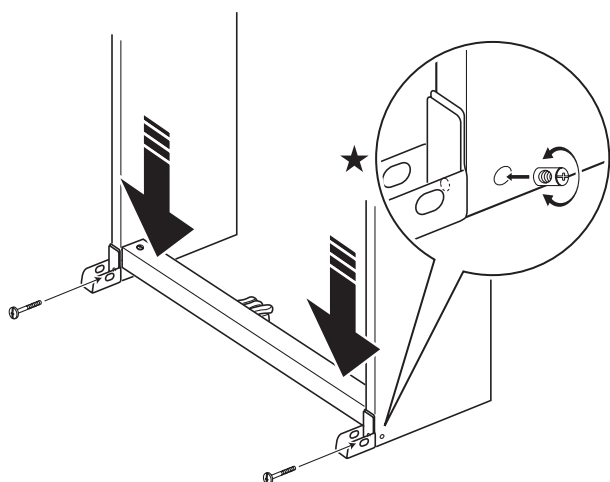
- 12.** 手順9で仮留めしたネジ⑮をしっかりと締めます。
- ネジ⑮にキャップ⑯をかぶせます。



13. 手順10で外したネジでスタンドと金具を固定します。

重要!

- このとき、ペダルユニットの端を下向きに押さえつけながら、ネジを締めてください。



- 金具を取り付けるネジが側板にあらかじめ付いているジョイントコネクタのネジ穴に入りにくい場合は、ドライバーを使用してジョイントコネクタを回転させ、ネジ穴をネジの入る向きに合わせるように調節してください(図中の★)。

<ジョイントコネクタとネジの締め方>

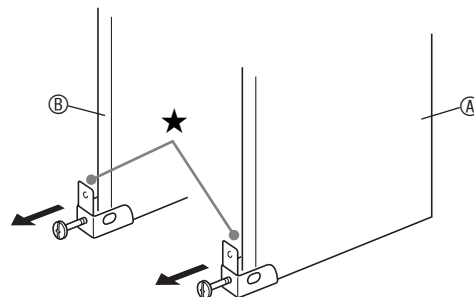
- ネジを左方向(反時計回り方向)に3回転ほど回して、ネジがジョイントコネクタの中心にあることを確認します。
- ネジを右方向(時計回り方向)にゆっくり回し、抵抗なくネジが締まることを確認してください。抵抗感がある場合、ネジとジョイントコネクタが確実に組み合っておりませんので、再度ネジを左方向に回して確実に組み合わせてください。
- ネジがうまく入らない場合はドライバーを使用してジョイントコネクタを180度回転させ反対側のネジ穴をネジの入る向きに合わせて(1)、(2)の手順を再度行ってください。

※ 無理にネジを締めると、ネジとジョイントコネクタのネジ山がつぶれて使えなくなりますのでご注意ください。

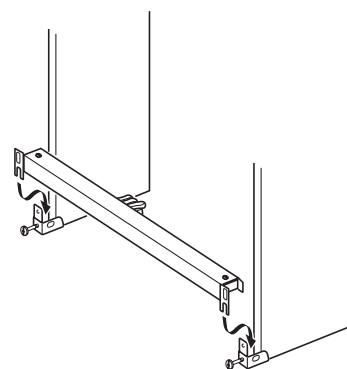
壁に近づけて本機を設置するには

- 手順1~9(21、22ページ)の組み立てを行ってください。

10. スタンドの側板①と②の底面についているコーナー金具のネジをゆるめて、図のように側板とコーナー金具の間に隙間★を空けます。

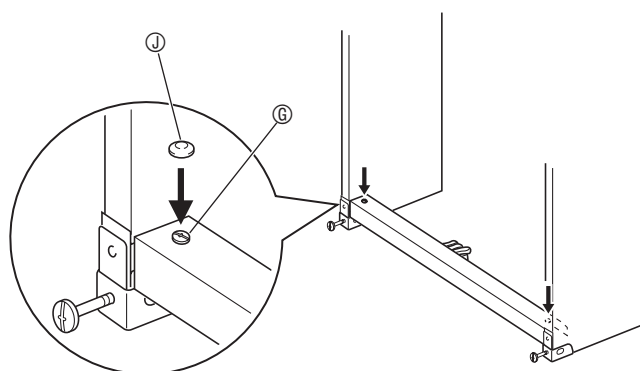


11. 手順10で空けた隙間に、図のようにペダルユニットの金具を差し込みます。



12. 手順9で仮留めしたネジ③をしっかり締めます。

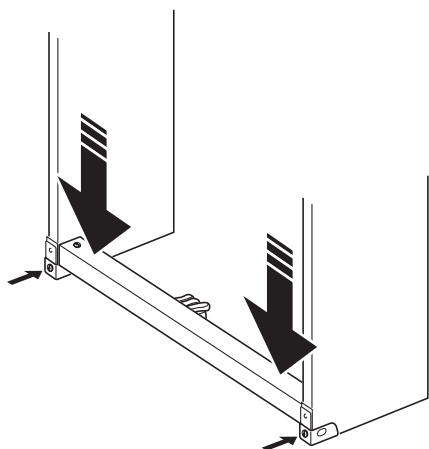
- ネジ③にキャップ④をかぶせます。



13. 手順10でゆるめたネジを締めて、側板とコーナー金具を固定します。

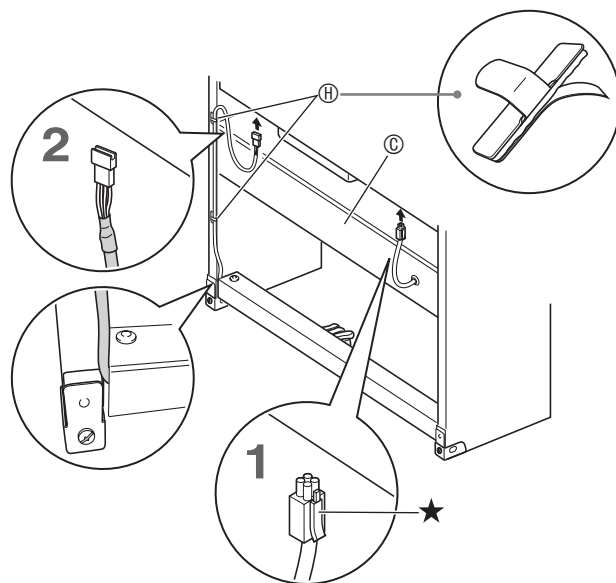
重要!

- このとき、ペダルユニットの端を下向きに押さえつけながら、ネジを締めてください。



コード類を接続する

1. スピーカーボックス⑩のケーブルを、ピアノ本体底面にあるスピーカーコネクターへ差し込みます。
2. ペダルユニットのプラグを、下図と同じ向きにして、ピアノ本体底面にあるペダルコネクターに差し込みます。
 - ペダルコードを側板⑧の2箇所、クリップ⑨で固定します。

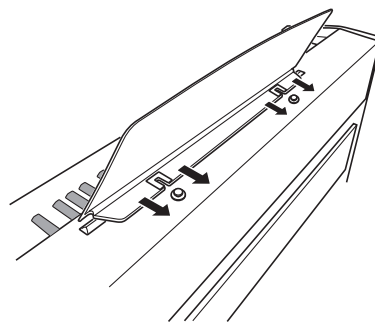


メモ

- コネクターへ差し込むときは、根元までしっかりと差し込んでください。
- スピーカーケーブルを抜くときは、フック部分(★)を押さえながら抜いてください。

譜面立ての立て方

1. 図のように、譜面立てをピアノ本体の上部にあるネジに差し込み、ネジを締めます。



困ったときは

現象	原因	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみが“MIN”の位置にある。 ヘッドホンがつながっている。 ローカルコントロールの設定がオフになっている。 	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみを“MAX”の方に動かす。 ヘッドホンをPHONES端子から抜く。 ローカルコントロールの設定をオンにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 6ページ ☞ 5ページ ☞ 19ページ
ピッチがずれて聞こえる。	<ol style="list-style-type: none"> 鍵盤の調（トランスポーズ）の設定が“0”以外になっている。 音程の調整（チューニング）の設定が“0”以外になっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 設定を“0”にする。または、電源を入れ直す。 設定を“0”にする。または、電源を入れ直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 18ページ ☞ 18ページ
デモ演奏や録音した曲の再生を始めたが、音が出ない。	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみが“MIN”の位置にある。 ヘッドホンがつながっている。 	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみを“MAX”の方に動かす。 ヘッドホンをPHONES端子から抜く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 6ページ ☞ 5ページ
鍵盤を押しても、外部のMIDI音源の音が出ない。	<ol style="list-style-type: none"> 本機の送信チャンネルと外部のMIDI音源のチャンネルが一致していない。 外部音源のボリュームやエクスプレッションの設定が“0”になっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 本機と外部のMIDI音源の送信チャンネルを一致させる。 外部音源のボリュームやエクスプレッションの設定を適切な値にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 19ページ ☞ 外部音源の取扱説明書
同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。	デジタルサンプリングという電子処理※によって発生する音域の境目で、故障ではありません。 ※ 元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。		
ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聞こえる。	レイヤー機能、デュエット機能、内蔵曲の演奏、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。このようなときにボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによっては左記のような現象が発生することがありますが、故障ではありません。		

製品仕様

型式	PX-720/PX-720C
鍵盤	88鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大128音
音色	11種類 <ul style="list-style-type: none"> レイヤー可（ベース音色を除く） スプリット可（低域はベース音色のみ）
エフェクト	ブリリアンス（-3~0~3）リバーブ（4種）、コーラス（4種）、アコースティックレゾナンス
メトロノーム	<ul style="list-style-type: none"> 拍子：0, 2, 3, 4, 6 テンポ範囲：20~255
デュエット	音域変更可（-1~+2オクターブ）
ミュージックライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> 曲数：60曲 曲の音量：調節可 パートのオン/オフ：L, R
録音機能	<ul style="list-style-type: none"> 方式：リアルタイム録音、再生 曲数：1曲 録音トラック数：2トラック 容量：合計約5,000音符 録音内容の保持：内蔵フラッシュメモリー
ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> タッチセレクト：3種類、オフ トランスポーズ：2オクターブ（-12~0~12） チューニング：A4=440.0Hz±99セント（可変） 操作のロック
MIDI	16chマルチティンバー受信
入出力端子	<ul style="list-style-type: none"> PHONES端子：標準ステレオジャック×2 出カインピーダンス170Ω 出力電圧5.6V（RMS）MAX 電源端子：DC12V MIDI [OUT] [IN] 端子 ペダルコネクター
スピーカー	φ12cm×2（出力8W+8W）
電源	家庭用100V電源使用 ACアダプター AD-12JL使用
消費電力	12V --- 18W
サイズ	本体+スタンド：幅137.4×奥行29.8×高さ79.2cm
重量	本体+スタンド：約32.0kg
付属品	ACアダプター（AD-12JL）、スタンド、ペダルユニット、スピーカーボックス、譜面立て、取扱説明書（本書）、保証書、楽譜集、安全上のご注意

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
イス	CB-5 CB-9 CB-20
MIDIケーブル	MK-5

- 別売品はいずれも、カシオ電子楽器取扱店（全国の有名楽器店、デパートなど）で、お求めになれます。

トーンリスト

音色名	プログラム チェンジ	バンクセレクト MSB	最大同時 発音数
GRAND PIANO (MODERN)	0	48	64
GRAND PIANO (CLASSIC)	0	49	64
GRAND PIANO (VARIATION)	0	50	128
ELEC PIANO 1	4	48	128
ELEC PIANO 2	5	48	64
HARPSICHORD	6	48	128
VIBRAPHONE	11	48	128
PIPE ORGAN	19	48	128
STRINGS	49	48	128
BASS 1	32	48	128
BASS 2	32	49	64

ソングリスト

NO.	曲名
01	ノクターン 作品9の2
02	幻想即興曲 作品66
03	エチュード 作品10の3 <別れの曲>
04	エチュード 作品10の5 <黒鍵>
05	エチュード 作品10の12 <革命>
06	エチュード 作品25の9 <蝶々>
07	プレリュード 作品28の7
08	ワルツ 作品64の1 <小犬のワルツ>
09	ワルツ 作品64の2
10	楽興の時 第3番
11	即興曲 作品90の2
12	軍隊行進曲 第1番 (連弾)
13	春の歌「無言歌 第5集」より
14	楽しき農夫「ユーゲント・アルバム」より
15	見知らぬ国と人々について「子供の情景」より
16	トロイメライ「子供の情景」より
17	タンブラン
18	メヌエット BWV Anh.114 「アンナ・マグダレーナ・バッハのクラヴィエア小曲集」より
19	インヴェンション 第1番 BWV 772
20	インヴェンション 第8番 BWV 779
21	インヴェンション 第13番 BWV 784
22	プレリュード 第1番 BWV 846 「平均律クラヴィエア曲集 第1巻」より
23	かっこう
24	ガボット
25	ソナチネ 作品36の1 第1楽章
26	ソナチネ 作品20の1 第1楽章
27	ソナタ K.545 第1楽章
28	ソナタ K.331 第3楽章 <トルコ行進曲>
29	ロンド K.485
30	エリーゼのために
31	トルコ行進曲
32	ソナタ 作品13 <悲愴> 第1楽章
33	ソナタ 作品13 <悲愴> 第2楽章
34	ソナタ 作品13 <悲愴> 第3楽章
35	ソナタ 作品27の2 <月光> 第1楽章
36	ラブソディ 第2番
37	ワルツ 作品39の15 (連弾)
38	愛の夢 第3番
39	花の歌
40	乙女の祈り
41	クシコス・ポスト
42	ユーモレスク 作品101の7
43	メロディー「叙情小曲集 第2集」より
44	シシリエンヌ 作品78
45	子守唄「ドリー組曲」より (連弾)
46	アラバスク 第1番
47	亜麻色の髪の乙女「前奏曲集」より
48	パスピエ「ヘルガマスク組曲」より
49	ジムノペディ 第1番
50	ジュ・トゥ・ヴ
51	愛の挨拶
52	エンターティナー
53	メーブル・リーフ・ラグ
54	アラバスク「25の練習曲 作品100」より
55	スティリアンヌ「25の練習曲 作品100」より
56	アヴェ・マリア「25の練習曲 作品100」より
57	帰途「25の練習曲 作品100」より
58	貴婦人の乗馬「25の練習曲 作品100」より
59	第13番「30番練習曲 作品849」より
60	第26番「30番練習曲 作品849」より

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください

■ 設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所（これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります）。

■ 本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■ 付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ ウェルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウェルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ 音のエチケッ

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不明な点や誤りなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

- 保証期間中は
保証書の規定に従ってお買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口が修理をさせていただきます。
 - 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
 - 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口までご連絡ください。
- 保証期間が過ぎているときは
お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

当商品は「出張修理」「持込修理」のいずれも受け付けております。修理をお急ぎの場合には、事前に最寄りのカシオテクノ修理相談窓口にご相談ください。お客様のご希望に沿った修理方法をご案内させていただきます。

あらかじめご了承ください

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただきますこと」があります。また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただきますことがあります。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただきますことがあります。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内のカシオテクノ修理相談窓口にご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。



This recycle mark indicates that the packaging conforms to the environmental protection legislation in Germany.

これは、梱包箱がドイツの環境保護法に適合していることを示すリサイクルマークです。

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

© MA0708-B Printed in China
PX720/720CJA1B